薬師町探索ウォーキング　和田地区社会福祉協議会

家数　・人口　：　享保４年（1719）　家数　27（内　本百姓２２　水呑５）　人数　１８０

医師　1　馬８疋　【浜松町数村数家数田地高間尺之帳】

Ⅰ　薬師堂

薬師如来がお祀りしてある薬師堂が建てられたのは，平安時代（794～1192）の中期（今から800年位前）。　伊那備前守の厚い信仰によって建立された。旅の途中で病に倒れ不帰の客となる人や病に侵され療養を余儀なくされる人などいたことと思われる。旅人の無病平癒，無病息災のつつがない旅を祈願して，この薬師如来が安置された。安間了願子孫を中心とする新田開発も進み，薬師堂のあたりに人が住み始め，里人の信仰の対象となるとともに，来訪者が後を絶えることなく続いた。遠江に点在する四十九のお薬師さまが祀られる霊場を巡る旅は，　いつ頃から始まったのかはっきりしないが，享保17年（1732）に「遠江四十九薬師御詠歌」が刊行されているところから，江戸時代の中期にはすでに行われていたと思われる。当時は白装束に身を包んだ巡礼者が道中を住来したという。さらに明治・大正にかけても庶民が足しげく寺々を回り，春秋の彼岸の頃には，　たいそう賑わったとのこと。しかし昭和に入ってからは，人々の足が次第に遠のいていった。再興のため，昭和５２年７月28日「遠江四十九薬師奉賛会」が発足した。お薬師さまを訪ね歩く巡礼者も増えてきた。最近では，大型バスを連ねての巡礼も珍しくない。

薬師堂の歴史（古書などから）

○　享保　4年　(1719)　「国領組諸色覚帳」に，　薬師堂３間４面　堂守 浄土宗　直　言とある。
　　享保年間には浄土宗の直元が堂守をしていた。

○　明治　2年（1869）「旧高旧領取調帳」に　光安寺除地四斗三升五合とある。

○　明治　3年（1870）　明治３年の板刻本「遠江四十九薬師御詠歌全集」に，「十番かうあんじ薬師堂」とある。かうあんじは光安寺のことであろう。薬師堂は光安寺中にあったのではなかろうか。光安寺自体は小寺で立ち行かず廃絶したが，薬師堂は薬師如来の厚い信仰によって余命を保ってきた。

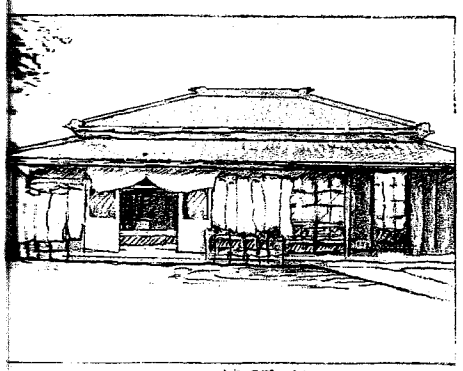
○　昭和10年(1935)　薬師村民が総出で薬師堂を再建
　　薬師堂の棟礼に

一　浜名郡和田村薬師字川田百三十八番宅地百九拾五坪薬師堂所有地二再建

一　本建築ハ和田村役場二使用セシ家屋ヲ買受仏殿前面庇（ひさし）及土台等新設

其他木材金物瓦等補改築セシモノ也

とある。なお，このほかの一切の手伝人夫は，当区信徒七十軒が三日ずつ奉仕，そのほか消防組や世話人の協力を合せて延人員三百人，工費合計金壱千円也と記している。薬師如来は西側の一室に安置されていた。この建物は，公会堂としても利用されてきたが，地元の人たちは「お堂」「薬師堂」と呼んできた。



旧薬師堂

○　平成17年　公会堂新築

旧薬師堂解体により，薬師如来像の管理を安正寺にお願いした。

○　平成21年　　薬師堂新築（安正寺本堂西側に隣接）

薬師町１４４番地が薬師堂の本家本元。効験あらたかな薬師如来を祀る薬師堂であり，薬師町の町名にも由来するところから，本寺はその高揚に努めている。薬師町自治会と安正寺住職との話し合いで，今後の維持管理・お祀りを安正寺にお願いした。

薬師堂境内にある神仏等

○　**六地蔵尊**　　当地区は，街道沿いにある。辻のあちこちに地蔵尊が立てられていた。ひどく破損したものまで薬師堂境内に移転し祀っている。お地蔵さまは，自力で成仏できない子どもを極楽まで運んでくれたり，旅人の安全を護ってくれたりし，旧くから村人に親しまれてきた菩薩である。

（＊昔は，子どもの死亡率が今よりずっと高かった。）

○　**馬頭観音**　　清水秀明著書に「粂治郎の墓の南に，ごく小さなトタン囲いに，旧東海道から移転したという**ひどく破損した**馬頭観音を祀っている」とある。馬頭観音が立っていた場所は，旧東海道（県道中野子安線）の北側518番地近辺であったという。今は安正寺に移転してある。馬頭観音の説明は安正寺の項で記載する。

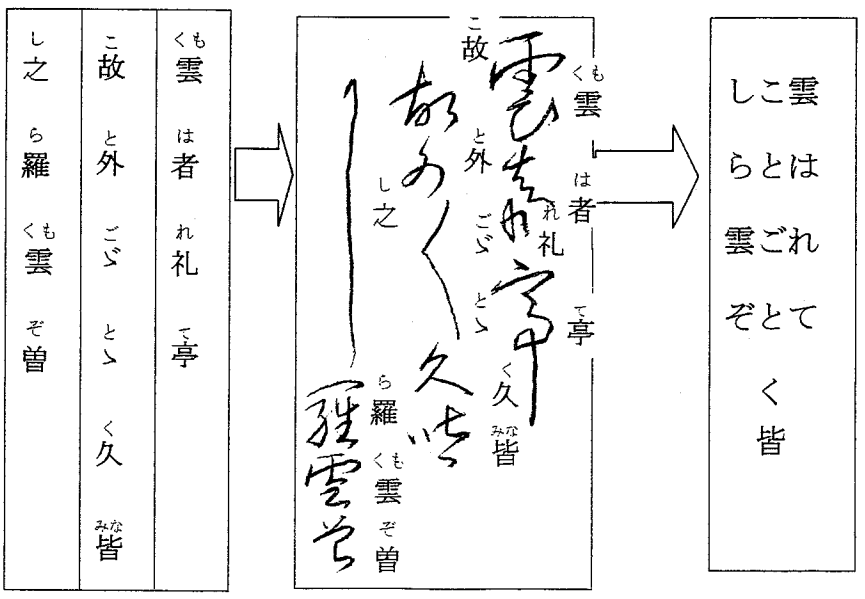
○　**津島神社**　　祭神は津島神社の**スサノオノミコト**

○　**秋葉山常夜燈**　毎晩灯がともされる。秋葉山の　のぼり立ては昭和３年１１月吉日　薬師青年団によって立てられた。

○　**小枝粂次郎墓**　説明板をご覧ください。

○　**来圃（らいほ）の句碑**　（俳人小枝来圃は小枝粂次郎の子孫）　俳人として、大瀬地区では栩木夷白（とちぎいはく）　笠井地区では松島十湖がよく知られている。小枝来圃は，栩木夷白の師である。（安間木潤亭に摩訶庵蒼山が滞在するようになってからは蒼山が栩木夷白の師）。栩木夷白は松島十湖の師である。

句の読み方



Ⅱ　安正寺

創立は江戸時代の末期と言われている。創立年代は不詳である。伊奈備前忠次を開基とし，一宗大

和尚を開山に迎え，飯田の竜泉寺末となり，古真山安正寺と称した。開創当時は真言宗であった。

第十番礼所　　安正寺 遠江四十九薬師霊場

◂この看板が門前に立てかけてある。

○　**薬師如来**　薬師如来のことを正式には，薬師瑠璃光如来という。この世の苦痛すなわち病苦　不具　災禍　生活苦等々から解放・救済してくれるという。薬師瑠璃光如来は普通，右手は肘を曲げ手の平を前に向けている。この姿のことを施無畏印（せむいいん）という。施無畏印とは人々の怖れ・心配を取り除く姿である。左手は肘を曲げ薬壺（やっこ）を手のひらの上に乗せている。この姿のことを與願印（よがんいん）という。與願印とは人々の願いに與（くみ）して救ってくれる（願いを聴いて救ってくれる）姿である。当寺の薬師如来は６０年に一度の御開帳という。御姿を知っている人はまずいない。どんな御姿なのだろうか？

○　**大日如来**　享保４年（1719）の「国領組諸色覚帳」に，安正寺の寺内に２間に１間半の大日如来堂があることが記されている。老朽化したので昭和6年再築したという。

○　**馬頭観音菩薩**　　昔は牛馬が唯一の動力源で，人や荷物の運搬，農耕にとって非常に大切なものであった。その牛馬を供養するために，また牛馬が丈夫で長生きするようにとお参りした。特に東海道にあって交通の手段として，馬を守る仏様＝交通の仏様として旅の無事を祈念する人が多かった。現在では馬頭観音に交通安全を祈願するようになった。

＊【浜松町数村数家数田地高間尺之帳】によると，家数２７　馬８疋とあり，家数に対する馬の割合が多い。助郷課役のためだろうか。助郷＝江戸時代，宿駅に常備の伝馬・人足が不足した場合に，近隣の村が人馬を負担した。

○　**六道　地蔵**　　時間があれば，六道地蔵が手に持っている物について説明します。

○　**子育て地蔵**

左腕で赤ちゃんを抱っこしています。赤ちゃんを抱くときは，常に左手で抱くようにしているのでしょうか？　　ヒント：あなたは，赤ちゃんの頭があなたの胸の右にくるように抱きますか。それとも左でしょうか。

○　**金剛力士像**

阿吽（あうん）の口の形をしているわけは？　（ヒント　阿：出生　，吽：死亡

口の形に，阿（ァ）形＝（開け口）と，吽（ウン）形＝（閉じ口）　がある。**阿形の方を金剛像，吽形の方を力士像**という。金剛力士像は，伽藍を守る。山門の屋根にとどく程大きな仏像である。

◎***金剛力士像の鑑賞***　①台座　②顔の表情　③体形　④ポーズ　⑤身にまとっているもの　⑥手に持っている物などに着眼して鑑賞するとおもしろい。篠ヶ瀬町増幅寺の聖観世音菩薩とは全く対照的である。

Ⅲ　八柱神社

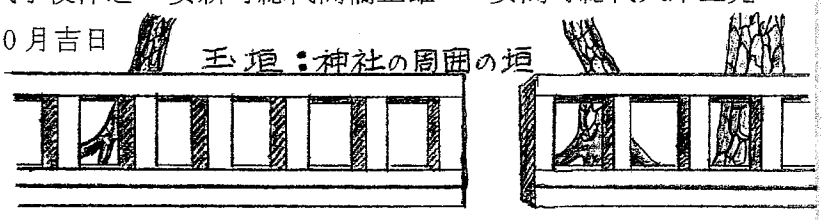
境内の樹林・・・昭和62年「保存樹林」とし浜松市の指定を受けた。クロマツの本数：指定当時62本，平成19年調査：49本（主に虫害により減少）。金原明善の植樹といわれている。

○　創立年月　不詳

○　享保４年（１７１９）　「一八王子宮　六所宮／権現宮社中御除」【神主大橋左京】
○「一真言宗頭陀寺千手院末寺　　神宮寺　八王子御供所社中二立候　」
　とあり少なくとも享保年間には神宮寺があり，神仏混淆であった。【国領組諸色覚帳】
○　明治維新後，太政官令達により八王子社を八柱神社に改称
○　明治６年２月　　村社に列せられる。【大橋文書】
○　明治６年９月　　員外社１２社を合祀　【大橋文書】

安間郷の郷社　**安間村　北島村　安間新田村　薬師村　薬師新田村の氏神様**

○ **拝殿正面額**　　揮毫　山岡鉄舟（維新（幕末）の三舟の一人）　＊勝海舟・山岡鉄舟・高橋泥舟（一三舟一）
○ **拝殿内額**　　有栖川宮熾仁親王揮毫　倒幕軍総師
○ **天龍翁紀功碑**　明善門下生　竹内龍雄建立　胸像は本山白雲作（明善が尊敬していた彫刻家・・・この胸像は，戦時中　軍に供出）戦後台座は和田小学校へ移転　現在の胸像は水野欣三郎作（浜松の生んだ彫刻家）
○ **灯　籠**　　天保 10 年（1835）奉獻　□□／金原□右衛門（明善の父親）
○ **灯　籠**　　天保 15 年６月（1840）奉獻　　安間村／金原久右衛門（明善の父親）
○ **狛　犬**　　昭和３年　奉獻　　大橋嶋太郎（御大典記念）
○ **社名標柱**「八柱神社」　　平成5年10月吉日　宮司大橋儀一　北島町総代高橋伊代治　薬師町総代高橋　實　薬新町総代小枝伸之　安新町総代高橋正雄　安間町総代久米正光
○ **玉垣築造**　　氏子その他有志　平成５年 10 月吉日
○ **説明板**　　平成 10 年 10 月吉日設置



Ⅳ　旧東海道の宿場と立場

【宿場】　　江戸時代の東海道は，江戸日本橋を起点として、京都三条大橋を終点とする、我が国における最も重要な交通路であった。徳川家康は慶長６年(1601)正月，大久保長安　彦坂元正　伊奈忠次に 東海道を巡視させて伝馬を出すべき宿駅を定めた。寛永年代に 53 の宿場が確立した。（東海道五十三次）

【立場】　　宿場と宿場の間に，大名や一般の旅人が駕籠（かご）を止めて，荷物を下ろし人馬を休める休憩所があった。この休憩所のことを立場という。

【薬師村にあった立場茶屋】　「東海道宿村大概帳」によると，見附―浜松間に立場茶屋が５か所あったことが記されている。その所在地は見付宿へ「二里二八町，浜松宿へ一里十五町，薬師新田内」と記されている。しかし，これは同書「薬師村ノ見附へ二里二八町，浜松宿へ一里十五町」と記載内容が一致しているので，この立場茶屋は薬師村地内にあったと考えられる。さらに「土地宝典」にも旧東海道の南側の薬師村地内に「茶屋前」の小字名があると記されている。立場茶屋の所在地は現薬師町地番 250 である。

Ⅴ　旧東海道松並木

故事来歴のある松並木である。東区では和田地区だけに松並木が残っている。旧東海道は，**「輝く水と緑のまち　東区」～水と緑のコリドー整備計画～**で，東西を結ぶコリドーの一つになっている。平成４年には 50 本あった松の木が，平成 19 年には 43 本に減ってしまった。減った原因は主に伐採によるものである。